

令和 6 年度第 1 回伊根町地域公共交通会議概要

日 時 令和 6 年 5 月 14 日(火) 15:00~16:30

場 所 伊根町ほっと館 ふれあいホール

1. 開会

2. 挨拶

3. 報告事項

① 福祉有償運送について（資料 1）

保健福祉課から資料の説明

意見・質疑 なし

② 令和 5 年度丹海路線バス（200 円バス）の実績について（資料 2）

事務局から資料の説明

意見・質疑

【丹後海陸交通株式会社 林委員】

本格 6 年目で、基準年度と比較し乗車人員の増加は明らかだが、運賃収入は下がっている。本来目指すべきは利用人員が増加して、200 円バスでも収入確保できるというところ。それが望ましい体制だと思うが、これからこういった形で収入を確保していくか検討が必要。観光利用の多い区間ではお客様も増えているが、収入については以前より少なくなっているというところをご認識いただければと思う。

【伊根町身体障害者福祉会 亀井委員】

利用人員が増加しているのに、収入が減っているのはなぜか。

【龍谷大学 井上教授】

利用人員が増加しているのに収入が上がらないのは、200 円バスになる前の伊根線の単価が一人当たり 376 円で、200 円バスにしたところ、現在では一人当たり 167 円しかいただけでない。半額以下になっている。これは蒲入線も同じで、200 円にする前は一人当たり 437 円いただいていたものが今 214 円になっている。つまり倍の人数が乗ってようやく以前の運賃収入が確保できる。客単価が下がりすぎている。今後のバス事業の持続性を考えると、運賃を見直さないと今後の継続は極めて厳しい。

③ 令和 5 年度いねタクの運行実績について（資料 3）

事務局から資料の説明（資料のとおり）

意見・質疑

【京都運輸支局 日高委員代理】

いねタクについて、本当に素晴らしい取り組みだと思っている。乗合率が 2.0 人に近い数字となっており、他の地域と比べるとかなり高い印象。土日の利用については基本的に観光客がメインであると思うが、当然住民利用もある。住民利用と観光利用をうまく棲み分けすることによって乗り合い率もさらに上昇し、効率的な運行が事業継続の秘訣になると思う。今後も土日含めた観光利用を伸ばしていけるようご尽力いただきたい。

【丹後海陸交通株式会社 林委員】

いねタクの取り組みについて、もっと持続可能にするために、例えば観光利用の方からは料金を高く取るということが制度的にできるのか

【企画観光課 千賀委員】

有償運送登録の際に運輸支局から、料金について観光客と住民客で差をあまり設けるべきではないとご指導いただき、料金としては統一とし、回数券によって住民利用と観光利用で差を設けている、という状況。ベースの金額をもっと引き上げて回数券は同額で、というような形を取れば、委員おっしゃられているような対応は可能と思っているが、今後の検討とさせていただきたい。

【龍谷大学 井上教授】

いねタクは、今のところ大変成功している事例に入ると思われる。何よりも、乗合率が 2.0 人に近いということで、非常に効率よく運行されていることが分かる。今後も効率のいい運行をすることが維持に繋がると考える。ただ、気になるのがドライバーさんがいつまで担ってくれるかという問題。運転業務をしっかりと担っていただけるような雇用をしていかないといけない。あとは、オペレーターの負担は大丈夫か。少しでもいねばんを使った予約を進めるには、今後も講座を開催するなど、周知の継続が望まれる。

④ 伊根町地域公共交通会議監査委員の選任について（資料なし）

伊根町地域公共交通会議設置要項第 10 条第 2 項に基づき、会長の指名により下記の 2 名が監査委員に選任された。

・伊根町保健福祉課長 石野委員

・一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社伊根地域本部事務局長 吉田委員

意見・質疑 なし

4. 議題

議第 1 号

幹線バス伊根線・蒲入線の再編について（資料 4）

事務局からの説明（資料のとおり）

意見・質疑

【丹後海陸交通株式会社 林委員】

公共交通の担い手として、市町をまたぐ幹線バスを維持していきたいと思っている。そ

の中で、他市町の枝線部分は廃止という方向で進めている。今回幹線バスの再編ということで、便数に関しては変わらないが、お客さまが少ないところの削減をしていく。2024年問題というのが大きく関わっており、運転士の拘束時間や、1日の勤務間インターバルという制約が出てくる。幹線は守りたいという前提の中、今回このような提案をさせていただくことについて、ご理解いただければと思う。運転手の確保状況について、一進一退が続いている。辞めると言っていた方が、状況を見て残るという判断してくださったり、現在事務職の方に運転士として復帰していただいたりしている。その一方で、辞めたいという人もおり、それを必死に止めている。待遇改善等しているが、樂觀できる状態ではないということを改めてお伝えさせていただく。

【京都運輸支局 日高委員代理】

運転士不足は2024年問題が大きな一因となっており、丹海さんに限らず、都市部においても死活問題となっている状況。そういった中で丹海さんには、あらゆる知恵を絞って再編計画を考えていただいた。残念ながら廃止になる枝線もある。運転士のイメージ改善も必要なことながら、待遇面も考えていかないといけない。井上先生からもお話があったが、運賃の妥当性について今後検討していく余地もあるのではないかと考えている。

議第2号

令和6年度地域内フィーダー系統確保維持事業計画の変更について（資料5）

事務局からの説明（資料のとおり）

意見・質疑

【伊根町身体障害者福祉会 亀井委員】

導入時期が7年の1月31日と記載があるが、令和7年度になるのではないか。

【企画観光課 千賀委員】

運行の補助金については10月から9月で計上されるが、車両購入については、1月末までに購入したものが令和6年度の補助金で交付いただけるということになっているので、1月末までに購入をしたいと考えている。

議第3号

令和7年度地域内フィーダー系統確保維持事業計画について（資料6）

事務局からの説明（資料のとおり）

意見・質疑 なし

議第4号

令和6年度歳入歳出予算案について（資料7）

事務局からの説明（資料のとおり）

意見・質疑 なし

議第5号

バス停留所の停車及び駐車を禁止する場所の規制から除外する対象について（資料8）

事務局からの説明（資料のとおり）

意見・質疑 なし

5. その他

【龍谷大学 井上教授】

今回実施されるパーク&ライドというのは、オーバーツーリズムへの対応として非常にいい取り組みなので、地域の方々からのご協力いただければと思う。オーバーツーリズムの最初の段階は「地元の人たちが駐車場に止められない」「車が渋滞して動けない」となることで、伊根町は今この段階であるため、早めに対応されることをお勧めする。次にやってくるのはゴミの問題、その次が地元の人たちが行く飲食店がいっぱいになり常連さんが行けなくなってお店がしぼんでしまう。そして、その次の段階が、いつも混んでいるからといって国内の旅行者が来なくなる。京都市内は今このような状態。最後は住む人がいなくなり、誰も来なくなってしまう。この伊根町にお住まいの方々が作られてきた文化を是非皆さんで守り、適切に観光として楽しんでもらうように持続させることを目指していただければと思う。その中で移動が大変重要となるが、先ほどもお話しがあったように、丹海さんは収益の大きい仕事を断って、何とか路線維持している。民間からすればおかしい話だが、路線バスを守るためにそのようにしているというのを重く受け止めなければならない。あと5年もしたら、今の本数は半分以下になる可能性だってある。それぐらい深刻な状況にあるということ。難しい課題ですが、皆さんで共有していければと思う。

【京都運輸支局 日高委員代理】

林委員や井上委員からお話しあったとおり、皆さんで協力して幹線を守っていきたい。国の補助の見解から申し上げても、まず幹線の維持をしなければフィーダーの補助は受けられない。まずは幹線を守り、それを踏まえて利用促進も検討していただきたい。

以上